

「北九州市文化芸術推進プラン（素案）」に対する 市民意見の募集結果及び最終案について

1 意見募集期間

令和6年10月10日（木）～同年11月8日（金）まで

2 意見提出状況

- (1) 提出者数 38人・団体
- (2) 提出意見数 74件
- (3) 提出方法 オンライン18人・団体、メール18人・団体
持参2人・団体

(4) 意見の内訳

分類	件数
① プラン全般に関するもの	21件
② 柱「まちに彩りを生み出す」に関するもの	16件
③ 柱「豊かな心と活力を育む」に関するもの	20件
④ 柱「多様な人を惹きつける」に関するもの	13件
⑤ その他	4件

(5) プランへの反映状況

分類	件数
① プランに掲載済	7件
② プランの追加・修正あり	2件
③ 今後の参考とするもの	39件
④ プランの追加・修正なし	9件
⑤ その他	17件

「北九州市文化芸術推進プラン(素案)」に対する市民意見の内容及び市の考え方

【意見の反映状況】

①プランに掲載済 ②追加・修正あり ③今後の参考とするもの ④追加・修正なし ⑤その他

No.	市民意見	市の考え方	反映状況
北九州市文化芸術推進プラン(素案)全般に関するもの			
1	プラン計画期間の5年間でどこまで行けるのだろうと思う。5年後に成果を公表いただき、修正できたらと思う。	本プランの進捗については、24ページに記載した主な指標に加えて、文化芸術の特性を踏まえ、定性的な側面も捉えながら、その成果を公表し、改善を図ってまいります。	③
2	このプランを実現するために、どれだけの予算を投じる予定なのか、予算確保に向けて企業や市民にもご理解ご協力をいただけたらと思う。	これまでも、文化芸術事業に対しては、企業や団体、市民など、幅広い方の寄付や協賛をいただいております。引き続き、行政だけでなく、市民や団体、企業、地域など、皆様とベクトルを合わせ、文化芸術関連施策を実施してまいります。	③
3	プランは内容的にやや集客とその相乗効果による「お金を落とす」効果へのウエイトが前面に押し出されているように感じる。文化芸術活動は興行という形を取る一面もあるが、それ以外の部分も大切であると思う。興行で稼ぐ施策と、芸術文化の将来を下支えする施策、市民の楽しさと充実度を高める施策は切り離して考えるべきではないか。	文化芸術の取組を通して、本質的価値に加えて、社会的・経済的価値を創出し、そこで得られた収益を本質的価値の向上のために再投資するという循環を生み出すことが重要と考えており、文化芸術がもたらす多様な価値を原動力に、「市民の幸福」と「まちの成長」の好循環創出に努めてまいります。	④
4	スポーツも文化としてとらえ、総合的な振興を図るべきであると思う。ラグビーのワールドカップの年のウェールズナショナルチームと市民の間の素晴らしい時間が忘れられない。北九州では試合はなかったが、それでも多くのモノやコトを体感できた。もっと広い視点で文化をとらえられたらいいと感じた。	本プランが対象とする文化芸術の範囲は、7ページに記載の通り、文化芸術基本法が定める範囲を基本としつつ、北九州市の地域特性や時代環境の変化も踏まえ、検討してまいります。	④
5	骨子を見たが、北九州市らしいこと、他の都市になく、独自のものを入れて欲しい。5W2Hを明確にした具体策が欲しい。 人間は多様性に富む生き物で、興味はすごく多くの種類がある。優先順位を付けてほしい。連携・協働は何回も出てくるが、具体的に誰と誰の事なのか。	本プランは、時代環境の変化が激しいことを踏まえ、個別的な事業レベルではなく、文化芸術が目指す大きな方向性を定め、行政や関係団体、企業や市民とベクトルをあわせるものであり、具体的な個別事業については、毎年度の事業化の中で検討してまいります。 なお、プラン推進にあたっての指標として、24ページに令和11年度(一部指標は令和10年度)の目標値を記載しております。	④
6	今回の計画は、平成22～令和2年度の北九州市文化振興計画の第1期計画に続く第2期計画であるはずだが、本素案には、その「継続性」「連続性」に係る記載がない。計画には、新ビジョンに基づく縦の糸だけでなく、横の糸も必要だと考える。 国の計画や、本市の福祉関連の多くの計画を見ても、継続して積み上げられている。今回についても、第1期計画を踏まえ、それに続く第2期計画であることをきちんと明示すべきと考える。	平成28年改訂の北九州市文化振興計画は、平成25年に改訂された『元気発進！北九州』プラン(北九州市基本構想・基本計画)の部門別計画であり、本プランは令和6年に新たに策定した「北九州市・新ビジョン(北九州市基本構想・基本計画)」に基づく分野別計画となります。	④

「北九州市文化芸術推進プラン(素案)」に対する市民意見の内容及び市の考え方

【意見の反映状況】

①プランに掲載済 ②追加・修正あり ③今後の参考とするもの ④追加・修正なし ⑤その他

No.	市民意見	市の考え方	反映状況
7	このような計画策定においては、前計画の評価、課題把握や、国の新たな計画を十分に踏まえて、次の計画に進むのが至極当然だと考える。 このプランでは、事業の羅列に留まり、過去の十分な総括がされていない。まずは、そこを十分に踏まえ、国の最新の動きや新ビジョンを見据えてのブラッシュアップを図るべきだと考える。	平成28年改訂の北九州市文化振興計画では目標値を示していなかったため、本プランでは、前計画期間中の戦略や主な取組など、その実施状況を記載しております。	④
8	国においてはすでに、令和5年度～9年度を計画期間とした「第2期計画」が始まっている。前計画の「延長」文書には「第2期の方向性を踏まえて策定」とあり、素案11ページにも「参酌し」と明記されている。しかし、今回、素案にも検討会資料にも、第2期計画の詳細な説明がない。それらをどのように踏まえ、参酌したのか。また、「福岡県文化芸術振興基本計画」、「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律」、「障害者情報アクセシビリティ・コミュニケーション施策推進法」などについても、検討会で情報共有しているのか。	国の「文化芸術推進基本計画(第2期)」では、重点取組として「ポストコロナの創造的な文化芸術活動の推進」や、「文化芸術活動を通じた次代を担う子供たちの育成」、「多様性を尊重した文化芸術の振興」などを掲げており、その内容を踏まえて、本プランでは3つの柱と6つの施策の方向性を定めております。 なお、各種関係法令や計画については、その量が膨大となるため、検討会で個別具体的に紹介するのではなく、本プラン策定の背景として、その策定状況等を例示紹介しております。	⑤
9	他政令指定都市の文化芸術振興計画の類をHP掲載の範囲で調べた結果、今回の本市の委員数8人は下位レベルで、他都市では、幅広い人選も見受けられた。また、本市の第1期及び中間改定時の検討会の委員数は11人で、中間時は別に4人のアドバイザーもあり、今回よりも幅広い選任をしていた。 委員数が多いからいいわけではないが、文化芸術の領域はとて幅広く、障害者文化芸術や文化財行政、文化庁や地域創造の動向を熟知している方などは必要だったのではないかと。また、8人のうち3人が芸術文化振興財団の理事長・理事であり、検討会の人選、人数自体、不十分だったのではないかと。	本プランは、時代環境の変化が激しいことを踏まえ、個別的な事業レベルではなく、文化芸術が目指す大きな方向性を定めるものであるため、文化に関する個別分野の知見ではなく、全市的な視点で意見をいただきたいと考え、文化だけでなく、教育・産業・観光・若者などの観点から、検討会の構成員を選任しており、プラン策定にあたって、各界の観点から、貴重なご意見をいただいております。	⑤

「北九州市文化芸術推進プラン(素案)」に対する市民意見の内容及び市の考え方

【意見の反映状況】

①プランに掲載済 ②追加・修正あり ③今後の参考とするもの ④追加・修正なし ⑤その他

No.	市民意見	市の考え方	反映状況
10	<p>検討会の開催回数がわずか3回というのも政令指定都市分析で下位レベル。さらに、第1回目の会議から行政側が骨子案を示しているところはない。本市の中間改定時の検討会は6回開催で、その経過は、改訂版冊子で明らかにされている。</p> <p>文化振興計画の策定にあたり、本市でも過去、シンポジウムを開催しており、他都市でも、シンポジウムのほか、若者ワークショップ、座談会、意見交換会、有識者からのインタビュー、文化関係者からの意見聴取、庁内推進委員会などの取組が見られた。今回は、これらのいずれもしていないが、検討委員会の人数、人選の不十分なところを、このような方法でカバーすべきではないか。多種多様である文化芸術の計画策定においては、さまざまな意見を幅広く聞くというプロセスも大事だと考える。</p> <p>素案50ページに、今回の素案策定に際して「幅広く」意見を伺った一項目として、「Z世代へのヒヤリング」と書かれているが、検討会資料を見たところ、大学生2名のみ。わずか2名のヒヤリングをもって、Z世代へのヒヤリングを行ったと記述するのは、あまりにもおかしいのではないか。放課後児童クラブ利用者のアンケートについては、性別も年齢も調査の趣旨も不明。第1回、2回の会議録も、「後日公開します」のままで、未だ明らかにされていない。一方で、パブコメの募集要領には、「市民意識調査や有識者からなる検討会の意見等から素案をとりまとめた」旨の文面があるため、どのような意見を踏まえ、どうとりまとめたのかを詳らかにしていただきたい。</p>	<p>検討会の前後で構成員から個別にご意見をいただき、修正した資料を検討会で議論いただくなど、限られた時間で十分な意見をいただけるよう、丁寧に検討会を運営しております。</p> <p>また、検討会のご意見に加え、市民意識調査では1,177名の方から、子育て世帯からは100を超える世帯から回答いただくなど、幅広く意見を頂いております。</p> <p>なお、検討会の会議録については、ホームページで公表いたしましたので、ご確認ください。</p>	⑤
11	<p>今回の計画は、参考資料を除くと、24ページで、文字があまりに大きくなっていて、写真や図も大きなスペースを占めている。本市第1期が38ページ、中間改定時が50ページで、いずれも、今回ほど写真を多用しておらず、文字のポイントも今回より小さい。ということは、端的に言って、中身が薄い。</p> <p>試しに、単語検索を試みたところ、例えば、「創造」の単語は、今回が5回、中間改定時が41回、「文化財」は、今回11回、中間改定時74回。</p> <p>連続的な計画としては、過去を評価、分析し、国や他都市の最新の状況を調査し、また、幅広い方々からの意見を集めて、次の期間にどのような文化政策を深めていくのか、強めていくのか、などを明らかにするのが計画策定ではないのかと思うが、それらがすべて欠けているように思った。</p> <p>資料の中に、「時代環境の変化が激しいことを踏まえ、個別具体的な事業レベルではなく、大きな方向性を定める。」「本プランは、文化芸術の大きな方向性を定めるものであるため、具体的な個別事業については毎年度の予算の中で検討する。」という文章を見つけたが、素案の本文中には見当たらない。私が新ビジョン策定のパブコメに提出した時の市の回答は、「新たなビジョンは今後のまちづくりの方向性を示したものであることから、具体的な文化施策等については、分野別計画等で提示し、実施してまいります。」だった。</p> <p>国も他自治体も、5年や10年先を見据えた文化振興計画を立てており、本市でも、最近策定された福祉関連の計画などを調べてみても、かなり具体的な事業を列挙している。「時代環境の変化が激しいから個別具体的な事業レベルは策定できない。」という理屈は、私も初耳であり、世間に通用するのか。</p>	<p>市民ニーズの急速な変化やデジタル技術の進展など、時代環境の変化が激しく、事業内容が陳腐化するスピードも加速度的に早いため、個別具体的な事業を定めることより、行政だけでなく、市民や団体・企業等とベクトルを合わせて推進することが重要だと考え、本プランでは、北九州市の文化芸術が目指す大きな方向性を定めております。</p> <p>なお、個別具体的な事業については、本プランの方向性と文化芸術を取り巻く環境の変化等を踏まえ、柔軟に対応してまいります。</p>	④

「北九州市文化芸術推進プラン(素案)」に対する市民意見の内容及び市の考え方

【意見の反映状況】

①プランに掲載済 ②追加・修正あり ③今後の参考とするもの ④追加・修正なし ⑤その他

No.	市民意見	市の考え方	反映状況
12	<p>今回の内容として述べられていることは、これまで行ってきた、そして、現在行っている当たり前のことを大括りで書いているだけで、新たに、エンタメ、ナイトタイムエコノミー、食文化、文化観光などの項目と、「市政変革の視点」が書き加えられたことを除けば、第1期、中間改定時と同じことの繰り返しであり、そこで時間が止まっているというか、逆に後退している感がある。学校の部活動移管の問題、こどもまんなか、共生社会など、他部局と連携して進めていくべき課題も山積みである。親の経済格差に伴う、こどもたちの体験格差をどうするのか、も、喫緊の課題である。創造都市によるまちづくりを進めている自治体、クリエイターの集積により産業を活性化している自治体、アートフェアに力を注いでいる自治体などもある。なぜ、計画において、文化芸術を取り巻く最新の動向に深く言及しないのか。</p>	<p>本プランでは、時代環境の変化が激しいことを踏まえ、個別具体的な事業レベルではなく、行政や関係団体、企業や市民とベクトルを合わせるため、文化芸術が目指す大きな方向性を定めております。</p> <p>社会的な課題の解決に向けて、文化芸術の役割は増えていると認識しており、10ページに記載しております。</p> <p>ご意見を参考にさせていただき、他都市における最新の動向等も踏まえ、各種文化関連事業の実施に努めてまいります。</p>	④
13	<p>私は、文化に関する個々人の嗜好は、十人十色、千差万別だと思っている。そのような中で、少人数のアンケート調査の信憑性に疑問を持っており、特に、サンプルが異なる、年度を超えての分析について、統計学専門的に正しいという確証を得ているのか。</p> <p>今回、「文化芸術を身近に感じる市民の割合」や「文化芸術活動をした市民の割合」が指標として掲げられているが、回答者全員が文化芸術を広義に捉えたのなら、「文化芸術を身近に感じる市民の割合」も「文化芸術活動をした市民の割合」も、大幅に上がると思う。そうであるなら、この統計自体、とてもあやふやなものではないか。</p> <p>統計結果を恣意的に利用することにならないよう、ミスリーディングにつながらないよう、客観的、精確な統計活用が必要だと考える。</p>	<p>「文化芸術を身近に感じる市民の割合」や「文化芸術活動をした市民の割合」は、毎回のアンケートで文化芸術の範囲について同様の例示を行い、文学や音楽、美術、伝統芸能をはじめ、漫画やアニメ、映画といったメディア芸術等も含めて調査しています。</p>	⑤
14	<p>検討会のホームページをみると、第1回検討会にて、いきなり骨子案が提出されており、その骨子案を誰が中心となって作成したのか、「文化芸術に関する諸分野の学識経験者や地域関係者等」がどのように関わっているのかがまったくわからない。骨子案について、誰が中心となって作成したのか、作成にあたりどれだけの関係者の意見交換を経て作成されたのか、それらの経緯を「見える化」していただきたい。骨子案から素案作成に至る過程の事前情報があることで、より顔の見える素案に対して、効果的なパブリックコメントを得ることが期待される。ぜひ、より良い計画となるよう、情報公開を行った上で、あらためてパブリックコメントの実施を求める。</p>	<p>「北九州市・新ビジョン(北九州市基本構想・基本計画)」の策定を受けて、北九州市の文化芸術を取り巻く環境や市民意識調査の結果、これまでの取組等を踏まえ、事務局である文化企画課において骨子(案)を作成し、有識者で構成する検討会の意見を踏まえ、修正を重ねております。</p>	⑤

「北九州市文化芸術推進プラン(素案)」に対する市民意見の内容及び市の考え方

【意見の反映状況】

①プランに掲載済 ②追加・修正あり ③今後の参考とするもの ④追加・修正なし ⑤その他

No.	市民意見	市の考え方	反映状況
15	検討会は、第1回が令和6年6月25日、第2回が令和6年8月21日に開催されており、第2回からみても既に2ヶ月半が経つにも関わらず、当日配布資料の中に主な意見があるのみで、議事録が公開されていない。構成員の熱心な討議を伺うことで、より顔の見える素案となるだろうし、効果的なパブリックコメントを得ることが期待される。ぜひ、より良い計画となるよう、情報公開を行った上で、あらためてパブリックコメントの実施を求める。	検討会の会議録については、ホームページで公表していますので、ご確認ください。	⑤
16	検討会は3回だけだったようだが、議事録は見えるのか。このメンバーでどのような発言があったかを知りたい。		⑤
17	子育て世帯へのアンケート調査は129件あった一方で、Z世代へのヒアリングは2名であり、情報の偏りが否めない。このような偏りのあるヒアリング内容が素案に反映されているとしたら、素案の作成過程にも疑義が生じる恐れがある。もう少し母体数を増やし、文化芸術の関係者、学生、社会人などある程度の幅が必要ではないか。そこで、ぜひ、より良い計画となるよう、あらためてヒアリングをやり直し、素案の磨き上げを行った上で、再度、あらためてのパブリックコメントの実施を求める。	検討会には文化観光に知見のある大学生を構成員を選任していることに加え、市民意識調査ではZ世代を含む18歳から30歳代の206名の方から回答を頂くなど、幅広くご意見をいただいております。引き続き、幅広く市民の皆様等のご意見をうかがいながら、各種文化関連事業の実施に努めてまいります。	⑤
18	検討会の構成員をみると文化芸術関係者は居るが、残念ながら文化財・埋蔵文化財など「市民の宝」を扱う専門家が入っていない。多様な人を惹きつけるのなら、最低限、県内の識者を加えた編成で検討会が開かれるべきではなかっただろうか。ぜひ、より良い計画となるよう、文化財・文化芸術関係で県内の識者を加える形で構成員を増員したうえで素案の磨き上げを行い、再度、あらためてパブリックコメントの実施を求める。	本プランは、時代環境の変化が激しいことを踏まえ、個別的な事業レベルではなく、文化芸術が目指す大きな方向性を定めるものであるため、文化に関する個別分野の知見ではなく、全市的な視点で意見をいただきたいと考え、文化だけでなく、教育・産業・観光・若者などの観点から、検討会の構成員を選任しております。また、マスコミ関係者や文化観光に知見のある大学生を構成員として選任し、市内外への発信に関するご意見をいただいております。各種文化関連事業においては、ターゲットを意識した情報発信に努めてまいります。	⑤
19	北九州市文化芸術推進プラン検討会構成員はどうやって決めたのか。	本プランは、時代環境の変化が激しいことを踏まえ、個別的な事業レベルではなく、文化芸術が目指す大きな方向性を定めるものであるため、文化に関する個別分野の知見ではなく、全市的な視点で意見をいただきたいと考え、文化だけでなく、教育・産業・観光・若者などの観点から、検討会の構成員を選任しております。	⑤
20	推進にあたっての指標について、現状値がコロナ禍での数値なので、コロナ前と比較できるようにコロナ前の数値を記載してはどうか。	ご意見を踏まえ、本プランを修正いたします。	②

「北九州市文化芸術推進プラン(素案)」に対する市民意見の内容及び市の考え方

【意見の反映状況】

①プランに掲載済 ②追加・修正あり ③今後の参考とするもの ④追加・修正なし ⑤その他

No.	市民意見	市の考え方	反映状況
柱「まちに彩りを生み出す」に関するもの			
21	文化・芸術を発表・表現できる場が限られていて、身近にほとんどない。シャッターや雨戸、また公共施設の壁が活用できるようにすることを提案する。さらに、空き地の活用を検討することを提案する。		③
22	私は書道をしており、イベントなどで書道パフォーマンスを行うことで文化芸術を身近に感じる市民の割合を増やせると思う。市民の皆様は義務教育過程の国語の分野で書写の授業に取り組んだことがあるだろう。大きな紙に筆と墨を基本とした芸術は市民に身近であると感じさせると共に、実際の目で見る迫力のあるパフォーマンスと完成するまでのドキドキは市民に感動を与えたいと思う。ぜひ、ショッピングモールや公園、商店街などの多くの人が集まる場所で書道パフォーマンスをしていただきたい。		③
23	アンケートによると文化芸術に触れる機会の拡大が多く望まれている。「様々な所で、小さくていいから芸術にふれられるような街になったらいいと思います」という意見から、市内に多く設置されているストリートピアノのような自由に使えるものを街中に点在させるのが良いと思う。自分の希望として誰でも自由に絵を描ける大きなキャンバスを挙げる。	「1(1)多彩で質の高い文化芸術に触れる機会の確保」において、文化施設を含め、身近なまちのいたるところで、アートや音楽、芸術など、優れた文化芸術に親しむ機会を創出するなど、様々な事業を実施してまいります。	③
24	何度か市が主催しているイベントに参加したことがあるが、場所が自宅から遠かったり、そもそもイベントの存在を知らなかったりする場合があった。私が参加するイベントは小倉駅周辺で行われることが多いが、自宅からだとバスで三十分から一時間近くかかるため、どうしても行きたくても行きづらい問題がある。また、イベントの告知もあまり見かけない。小倉駅に行ってやっと、そういうイベントがあるということを知ることが多い。		③
25	北九州の作家の作品を北九州の玄関口小倉駅コンコースのビジョンで観てもらおう機会を作ってはどうか。北九州の建物や景色を描いた作品をビジョンで流して、来北された方を迎え、見送ることで、まちを彩ってくれると思う。	ご意見を参考にさせていただき、地元出身アーティスト等の活躍の場を設けてまいります。	③
26	現在既に定例的に行われている各文化芸術イベントについては、毎年非常に苦勞して良いレベルのものを準備されているのは理解しており楽しませていただいている。一方で、「なんとなく毎年恒例の年中行事化した上からの企画」というような感じの雰囲気も感じている。	本プランの実現に向けて、市民のニーズに対応した取組になっているかなど、常に評価検証しながら事業内容の改善に努めてまいります。	③

「北九州市文化芸術推進プラン(素案)」に対する市民意見の内容及び市の考え方

【意見の反映状況】

①プランに掲載済 ②追加・修正あり ③今後の参考とするもの ④追加・修正なし ⑤その他

No.	市民意見	市の考え方	反映状況
27	文学に関する魅力を伝えられることをする。	文学館や松本清張記念館などを中心として、北九州市ゆかりの文学に関する魅力を幅広く伝えるよう努めてまいります。	③
28	施設を維持していく上で、料金設定が低すぎると感じる。老朽化に伴う改修計画を公表し施設・備品使用料金を引き上げる。単純に料金を上げるのではなく市民利用にも配慮し利用状況に合わせ設定できるシステムにするのはどうだろうか。	本プランの推進にあたっては、「北九州市政変革推進プラン」や「北九州市公共施設マネジメント実行計画」等を踏まえ、財源や施設などの限られた資源を有効に活用し、魅力あるまちづくりにつながるよう、取組を進めることとしており、時代環境の変化を踏まえて適切に対応してまいります。	③
29	夏休み期間等に市の文化施設が無料になるのは、一般市民にとっては大変有難いが、中長期的に考えると、市民が自分でお金を払って文化に触れる、という習慣・風潮ができにくくなる。従って完全無料ではなく、割引にとどめたほうが良いと思う。また、小規模の文化団体が有料でイベントを開催する場合に、集客が大変困難である。福岡市のような、習い事クーポンを北九州市も導入してほしい。18歳以上に対しても無料健康診断のような文化クーポン(習う、鑑賞など)を発行していただきたい。	施設の入館料やイベントの参加料の割引も含め、文化芸術施策の持続可能性を高めつつ、多くの市民に文化芸術に触れていただく方法について、財源や他都市の取組事例などを踏まえ、総合的に研究してまいります。	③
30	各施設の維持は最低限しっかりしていただきたい。響ホールは全国的にも誇れるホールだと思うが、複数個所の雨漏りは心が痛む。	市民の皆様へ安全・安心に文化施設をご利用いただけるよう、適切に施設の老朽化対策などに取り組んでまいります。	③
31	質の高い文化芸術に触れる、文化芸術体験の充実、文化芸術に親しみ楽しめる環境づくりについて、文化芸術の効果を高める質の高いホール、劇場、美術館、博物館の「施設面の充実」がなにひとつ示されていないのはなぜか。質の高い、充実した体験を引き出す「場」を常に最先端のものにしていく姿勢は、せめて努力目標として示されるべきではないだろうか。	「1(1)多彩で質の高い文化芸術に触れる機会の確保」において、「文化施設(P47~49)を含め、身近なまちのいたるところで、アートや音楽、演劇など、優れた文化芸術に親しむ機会を創出」としており、市民のニーズ等を踏まえつつ、施設の魅力向上に努めてまいります。	①
32	第1回検討会の資料1によれば、施設老朽化の課題をオンラインの活用で克服しようと言う姿勢を窺わせる。しかしながら、オンラインで発信するとしても、最新の設備と充実した施設がなければ絵に描いた餅である。オンラインでやればいいという姿勢では、良い施設・設備を備えた他都市との競争には勝てず、自前で育成したところで、文化芸術の優秀な人材を流出させるだけであろう。オンラインで発信することをうたうにしても、北九州市が選ばれるだけの施設の充実には欠かせない。振る袖がないと言うのだけれど、育成のためには充実した施設は不可欠。せめて、努力目標ぐらいにはプランに明記すべきである。	デジタル技術の進展を踏まえ、デジタルを活用しつつ、都市間競争や人材育成の視点も踏まえ、施設の魅力向上や人材育成など、多様な機会と手法を織り交ぜた取組を進めてまいります。	④

「北九州市文化芸術推進プラン(素案)」に対する市民意見の内容及び市の考え方

【意見の反映状況】

①プランに掲載済 ②追加・修正あり ③今後の参考とするもの ④追加・修正なし ⑤その他

No.	市民意見	市の考え方	反映状況
33	18ページの(2)地域の魅力的な文化資源の磨き上げの8行目「さらに、地域の歴史と風土の中で培われてきた文化財や埋蔵文化財などの「市民の宝」を分かりやすく公開し、大切に保存・継承することで、郷土の歴史と文化への理解を深め、郷土愛を育み、まちのにぎわいづくりなどにも活用していきます。」について、記載の順番が間違えている。正しくは、「さらに、地域の歴史と風土の中で培われてきた文化財や埋蔵文化財などの「市民の宝」を大切に保護し、保存・継承の方策を図るとともに、市民に向けて分かりやすく公開することで、郷土の歴史と文化への理解を深め、郷土愛を育み、まちのにぎわいづくりなどにも活用していきます。」であり、保護と保存・継承があってから、分かりやすく公開するプロセスとなるはずである。文化財保護法に目配せをしたうえで、文化観光の推進と連携したプランとしてほしい。	ご意見を踏まえ、本プランを修正いたします。	②
34	木屋瀬の町並みの保存について。江戸後期に建てられた家に親が住んでいるが、高齢化し近いうちに空き家となる。その後を維持するのは到底無理で、処分するしかないと思いつつ、どういう方法があるのか見当が付かない。古い家に住みたかったり、リノベーションして何かに利用したかったりする人がいるらしいが、全く伝手がない。 素案は元気の良い言葉が並んでいるが、古い文化的な資産の維持も大事。古い家に対し、外観の修繕費の補助はあるようだが、結局、大きなお金を出して維持するのは個人。住むにあたっては、古い家は不便で、何かと修理費がかさみ、耐え忍ぶだけで、いずれ限界が来る。街並みを保存するために、古い家を残せるように、個人の努力に任せず、具体的なアドバイスや仲介など、行政にやって欲しい。	北九州市では、長崎街道の宿場町の面影を残す八幡西区木屋瀬地区の歴史的建造物等を将来にわたり適切に保存するために、同地区を「景観重点整備地区」に指定し、建築行為の費用の一部を助成しています。個別の建造物については、文化財の指定や登録を受けたものでなければ補助対象等とはなりません。そのための事前調査や活用にあたっての助言等は文化企画課にて承り、NPOや専門団体に繋ぐなどの支援を行っています。今後も関係部局等と連携を密にし、適切な町並み・建造物の保存に努めてまいります。	⑤
35	世界遺産にふれているが、今、出土している旧門司駅の遺構はどうするのか。11もの学会が世界遺産に相当すると言っている。他の都市には絶対ないもので、壊したらもう取り返しは着かない。少なくとも、学識経験者との対話の機会を持ってほしい。	本プランは個別分野ではなく、北九州市の文化芸術が目指す大きな方向性を定めるものであり、個別の具体的な事業については、その都度検討してまいります。	⑤
36	なぜ、生産性があるとも思えない文化芸術を人類は大切に守ってきたのか。北九州市が考えていることを、教えていただきたい。	国の文化芸術推進基本計画では、「文化芸術は、人々の創造性を育み、豊かな人間性を涵養(かんよう)するとともに、人と人との心のつながりを強め、心豊かで多様性と活力のある社会を形成する源泉となるもの」とされており、北九州市においても、同様に重要なものと考えております。	⑤

「北九州市文化芸術推進プラン(素案)」に対する市民意見の内容及び市の考え方

【意見の反映状況】

①プランに掲載済 ②追加・修正あり ③今後の参考とするもの ④追加・修正なし ⑤その他

No.	市民意見	市の考え方	反映状況
37	北九州における伝統文化や歴史が、リスペクトされていないように思う。何処の都市でも通用する内容で細かすぎで、これまで北九州が築いて来たものが、軽くなっているように感じる。歴史を感じる事は誇りとなるはず。子供達が情報に踊らされる事のないように、県外へ出て又戻って来たいと思える場所になるように、北九州らしさをお願いしたい。 例)県、北九州指定の無形民族文化財を歴史とともに広く知ってもらう。旧門司駅遺構を世界にアピール。	「1(2)地域の魅力的な文化資源の磨き上げ」において、各地域に根差した歴史や文化を磨き上げ、積極的な情報発信や活用を図るとともに、歴史と文化への理解を深め、郷土愛を育む取組を推進してまいります。	①
柱「豊かな心と活力を育む」に関するもの			
38	教育機関での通常の授業においても文化芸術が広がるように、もっとこのプランに取り入れる必要があると感じた。	「2(1)次世代を担う子ども・若者の文化芸術体験の充実」において、学校へのアウトリーチ事業を実施するなど、文化芸術が広がるよう努めてまいります。	①
39	子どもが文学や芸術に触れられるように、学校を通して体験・鑑賞できる場をつくる。		①
40	小中学校や高校、大学で文化や芸術に触れられるような体験型授業をより活発に行うといいと思う。継続的な授業を行うことで、授業受講者の関心がより向けられるのではないかと思う。 例えば、年に1回美術館に見学に行くことだけにとどまらず、週に1回北九州の文化芸術に触れる授業を行うなどである。	「2(1)次世代を担う子ども・若者の文化芸術体験の充実」において、学校や地域の人材など、社会全体のリソースを最大限に活用して、文化芸術を体験できる機会を設けてまいります。	③
41	小学三年生のミュージアムツアーが本年度から校外学習としてなくなったこと残念に思う。人生初美術館デビューの子どもも多く、探検パスポートがあっても親御さんに連れてきてもらえない子どもも多くいる中、芸術、美術、美術館に出会えないことが残念。	「2(1)次世代を担う子ども・若者の文化芸術体験の充実」において、子どもの豊かな感性や創造性を育むために、引き続き美術体験のあり方などを検討し、体験学習の充実に努めてまいります。	③
42	美術館のミュージアムツアーを復活してほしい。		③
43	小学生の時に授業の一環として、タカミヤ環境ミュージアムやいのちのたび博物館を見学した。総合の授業や社会の授業で学んだことの詳しい説明や実物を見て、更に学ぶことができ、楽しく勉強することができた。 そこで、小中学生が歴史について学ぶ際に小倉城に見学に行くことを提案する。実物を見て学ぶ経験をすることは勉強意欲の向上に繋がるとともに、この体験を通して、歴史を学ぶことの楽しさや北九州市にある歴史資源に興味を持つことのきっかけを作ることができるのではないかと考える。	「2(1)次世代を担う子ども・若者の文化芸術体験の充実」において、子どもが郷土の歴史や文化芸術に興味をもつきっかけをつくるために、体験学習の充実に努めてまいります。	③

「北九州市文化芸術推進プラン(素案)」に対する市民意見の内容及び市の考え方

【意見の反映状況】

①プランに掲載済 ②追加・修正あり ③今後の参考とするもの ④追加・修正なし ⑤その他

No.	市民意見	市の考え方	反映状況
44	学校で文学の授業を取り入れる。	文学館や松本清張記念館などを中心として、様々な場所や機会を捉え、北九州市ゆかりの文学に関する魅力を幅広く伝えらるよう努めてまいります。	③
45	公共の場で文学作品に触れあえる場を設ける。		③
46	文学作品を子どもや障害のある子が簡単に見られる取組みをする。		③
47	ジャンルを問わず本当の意味で老若問わずに市民のアイデアを広く集めて、企画も参加も楽しめるような取り進め方によるイベントを毎年洗い替えて募集するような一面があってもよいのではないかと。企画から市民が携わる機会をもっと増やしたら、より面白い町になるのではないかと。	「2(2)誰もが文化芸術に親しめる環境づくり」における、市民が主体となって行う個性あふれる多種多様な文化活動への支援などを通して、企画から市民が携わる事業を実施してまいります。	③
48	伝統文化体験を学校でさせたい希望者が多いことにびっくりした。箏を演奏している者として、これから伝統文化を継いでいく若者がより多く出てくることを期待する。その為の予算の確保をお願いしたい。	「2(1)次世代を担う子ども・若者の文化芸術体験の充実」において、学校や地域の人材など、社会全体のリソースを最大限に活用しながら、伝統文化を含め、文化芸術の担い手の育成や若い世代が興味を持つきっかけづくりに努めてまいります。	③
49	日本古来の和楽器を若い世代の人達が気楽に接することができる環境を作ってほしい。		③
50	何を現実化するにも予算が必要。伝統文化に限るが、国の予算を運用する「伝統文化親子教室事業」を活用する事も出来るかと思う。文科省と市との予算協力により、学校現場や市民センターなど公共施設で開催することが出来る。豊かな経済があつての文化芸術では無く、平行して共に高めることが出来るようにしていただきたい。	文化庁が実施する、令和6年度「伝統文化親子教室事業」について、北九州市では22事業が採択されるなど、数多くの魅力ある事業が実施されております。引き続き、様々な場所や機会を捉えて、文化芸術に触れる機会を設けられるよう、国や県とも連携した取組を進めてまいります。	⑤
51	ダンス部が披露する場が欲しい。	「1(1)多彩で質の高い文化芸術に触れる機会の確保」や「2(2)誰もが文化芸術に親しみ楽しめる環境づくり」において、市民が文化芸術に親しむ機会を充実させてまいります。	③
52	文化や芸術を全面に出して行くな、有田焼等体験ができる文化を出していくといい。		③
53	まちで芸術に関する体験ができるようにしてほしい。		③
54	図書館で読み聞かせイベントを行う。	北九州市の図書館では、読み聞かせを行う「おはなし会」などを毎月定期的に開催しており、引き続き、本に親しむ機会を設けてまいります。	⑤
55	子どもや障害のある子が体感できる取組みを行ってはどうか。	「2(1)次世代を担う子ども・若者の文化芸術体験の充実」や「2(2)誰もが文化芸術に親しみ楽しめる環境づくり」において、年齢や障害の有無などにかかわらず、誰もが自分らしく文化芸術に親しみ楽しめる取組に努めてまいります。	①
56	障害のある方が「出来ることを発揮する場」があるとよい。		①

「北九州市文化芸術推進プラン(素案)」に対する市民意見の内容及び市の考え方

【意見の反映状況】

①プランに掲載済 ②追加・修正あり ③今後の参考とするもの ④追加・修正なし ⑤その他

No.	市民意見	市の考え方	反映状況
57	文化団体の高齢化が進み会員数の減少に伴って団体が消滅し、楽器店や関連業界も衰退し、業界全体が消滅する危機に直面している。次代を担う若者や子供の育成・継承が急務。人々の孤立防止の観点でも、シニア世代から生きがい仲間づくりを始めるのではなく、若い時から活動に参加する方が効果的だ。文化、健康の他様々な分野が連携して仕組みづくりに力を入れてほしい。	「2(1)次世代を担う子ども・若者の文化芸術体験の充実」において、子どもや若者が文化芸術に興味をもつきっかけづくりに努めることで、次世代の担い手や後継者の育成に努めてまいります。また、「2(2)誰もが文化芸術に親しみ楽しめる環境づくり」において、生きがいづくりや健康寿命の延伸にもつなげていくために、市民が文化芸術を育み、持続可能な形で活動を継続できる環境づくりに取り組んでまいります。	①
柱「多様な人を惹きつける」に関するもの			
58	文化芸術振興においては、まず関心を持ってもらうことが第一だと思う。 文化芸術に関連するイベントや展示会への参加意欲が低いことと時間的拘束により文化芸術に触れるのが難しいことは、文化芸術推進において解決すべき重要な課題である。 催しに参加するために労力を費やす価値があると思わせるPRが重要になるが、特に若者に向けて発信する場合はそれが難しいのではないかなと思う。なにか画期的なアイデアが生まれるよう応援している。	「3(1)多世代を惹きつける発信力の高い文化芸術の推進」において、時代環境やニーズの変化を踏まえつつ、集客力の高い文化芸術やエンタメコンテンツなどを活用し、非日常感を生み出すとともに、人の心を動かす取組を推進することで、多くの方に関心を持っていただくように努めてまいります。	⑤
59	コンサートなど、エンタメコンテンツを充実してほしい。	「3(1)多世代を惹きつける発信力の高い文化芸術の推進」において、エンタメコンテンツの充実に努めてまいります。	③
60	推し活イベントを実施する。		③
61	SNS映えする取組みやフォトスポットを設置してはどうか。		③
62	文学館では、今活躍している作家の紹介が少なかった。今活躍する作家や漫画家などを知ることができる施設やイベントがあれば、北九州市の文化芸術がより広まると思う。	「1(1)多彩で質の高い文化芸術に触れる機会の確保」や「3(1)多世代を惹きつける発信力の高い文化芸術の推進」において、集客力の高いイベントや人が集まる場の提供に努めてまいります。	③
63	様々な作品の聖地になっている場所・施設を県外や海外の人にもわかりやすく紹介するなど。		③
64	文化芸術の体験イベントは年齢を問わず楽しむことができる。		③
65	北九州ゆかりの作家と文学に関するアニメ・ゲームのコラボがあるとよい。		③

「北九州市文化芸術推進プラン(素案)」に対する市民意見の内容及び市の考え方

【意見の反映状況】

①プランに掲載済 ②追加・修正あり ③今後の参考とするもの ④追加・修正なし ⑤その他

No.	市民意見	市の考え方	反映状況
66	地域の文化施設やその周辺でアニメとのコラボ等を行う。スタンプラリーなどを行って施設を回れるようにする。	「1(1)多彩で質の高い文化芸術に触れる機会の確保」や「3(2)地域の魅力的な資源を活かした文化観光の推進」において、文化芸術と異分野とのコラボレーションや文化施設などを活かした取組、漫画やアニメなどメディア芸術等の魅力を活用した取組を推進してまいります。	③
67	世代別に内容を変えて、漫画家やイラストレーターと一緒に絵について学んだり描いてみるイベントを実施する。	漫画ミュージアムでは、初心者から楽しめる「漫画体験」や講師が漫画の描き方のコツや上達する方法などを指導する「漫画スクール」を実施しており、引き続き、漫画文化の振興に向けて、ユーザーのニーズを踏まえたイベント実施に努めてまいります。	③
68	今年の北九州国際音楽祭の招聘アーティストは例年に比べ寂く、市民企画のイベントもなくなった。期間が長いだけで密度の低下を正直感じる。北九州国際音楽祭に限らず、他の分野のイベントについても総花的にならずにワンポイントで超のつく目玉アーティストや集団を毎年必ず招聘するとか、別府におけるマルタ・アルゲリッチのようなレベルはいきなり困難でも「北九州の顔」となるアーティストを育むなど、インパクトある企画を育てていくような戦略も必要ではないか。	「3(1)多世代を惹きつける発信力の高い文化芸術の推進」において、集客力の高い文化芸術やエンタメコンテンツの活用など、インパクトのある企画に取り組みでまいります。	③
69	近年開館された北九州市科学館のPRを進めていただきたい。私自身好きな施設であり、市内唯一の大型プラネタリウムがあることは強く推していると思う。また天体に関連して皿倉山から見る夜景や天体観測のイベントなどに誘導することがうまくいけば、大型施設の多い八幡エリアでの活性化も増すのではないか。	「3(2)地域の魅力的な資源を活かした文化観光の推進」において、科学館を含め、各ミュージアムを活用した魅力的な取組を実施することで、北九州市の活性化につなげてまいります。	③
70	市政の柱のひとつ、稼げるまちをうたう一方で、このプランには、文化芸術の担い手(企画運営者、表現者、研究者)らが自前で資金調達を行う方法や、文学賞や文化芸術を推奨する懸賞制度、活動支援を行う体制、文化財保護を支える資金調達・支援の仕組みについてなにひとつ言及されていない。民間の活用をうたいながら、各活動は相互に連携・協働することをうたうだけで、メセナなど民間からの資金をプールし配分するカウンスル制度や文学賞、芸術奨励関係の賞を担う具体的な仕組みの検討をうたっていないのは、片手落ちと言えるだろう。稼げないながら、資金調達は自分たちで工夫しなさい、ではプランとして不誠実と言わざるを得ない。 昨今、ともすれば安易にクラウドファンディングに頼る風潮があるが、そもそも、文化芸術分野では、さまざまな資金調達の方法の議論が重ねられている。そうした議論を組み込み、行政からの支援はもちろんではあるが、それだけではなく、カウンスルなどを通して文化芸術活動を実現する手段の整備を併記することが求められる。	北九州市では「北九州かるかるファンド(北九州市文化振興基金)」で寄付を募り、文化関連事業に活用しております。引き続き、この仕組みの周知に取組むとともに、企業や団体等の協賛を募るなど、文化芸術の持続可能性を高めるために、多様な資金調達に努めてまいります。	④

「北九州市文化芸術推進プラン(素案)」に対する市民意見の内容及び市の考え方

【意見の反映状況】

①プランに掲載済 ②追加・修正あり ③今後の参考とするもの ④追加・修正なし ⑤その他

No.	市民意見	市の考え方	反映状況
その他			
71	北九州市文化芸術推進プランで深く考えていただいた様々な企画が現実となるよう願っている。お手伝い出来ることがあれば知らせてほしい。 私だけで無く、北九州市のため、次世代のため、そのように思っている文化芸術を志す先生方は多くいると思う。	各分野や地域でご活躍の皆様と共に、本プランに沿った取組を推進することで、文化芸術を通じて誰もがウェルビーイングを実現できる文化都市を目指してまいります。	⑤
72	都市の景観問題として、都市高速の高架が錆びており、町として魅力的に映らないことがある。	ご意見については、関係部局に伝え、今後の参考とさせていただきます。	③
73	電車のホームの発車メロディを北九州や福岡ゆかりのアーティストの音楽や曲を採用しても良いと思う。		③
74	八幡東区の八幡駅前の街頭バナーのような市にゆかりのあるデザイン作品を他の区でも作成しても良いと思う。		③

パブリックコメント等に基づく
「北九州市文化芸術推進プラン（素案）」の修正について

修正 1 （最終案 P18）

【意見の概要】

○文化財保護法に目配せをしたうえで、文化観光の推進と連携したプランとしてほしい。

【意見の反映結果】

修正前	修正後
さらに、地域の歴史と風土の中で培われてきた文化財や埋蔵文化財などの「市民の宝」を分かりやすく公開し、大切に保存・継承することで、郷土の歴史と文化への理解を深め、郷土愛を育み、まちのにぎわいづくりなどにも活用していきます。	さらに、地域の歴史と風土の中で培われてきた文化財や埋蔵文化財などの「市民の宝」を適切に保護し、保存・継承するとともに、分かりやすく公開することで、郷土の歴史と文化への理解を深め、郷土愛を育み、まちのにぎわいづくりなどにも活用していきます。

修正 2 （最終案 P24）

【意見の概要】

○プラン推進にあたっての指標における目標値について、現状値だけでなく、コロナ以前の数値を示してほしい。

【意見の反映結果】

修正前			修正後			
項目	現状値（R4）	目標値	項目	目標値	現状値（R4）	参考
文化のかおるまちと思う市民の割合	28.5%	40.0% (R11)	文化のかおるまちと思う市民の割合	40.0% (R11)	28.5%	21.0% (H27)
文化芸術を身近に感じる市民の割合	30.5%	40.0% (R11)	文化芸術を身近に感じる市民の割合	40.0% (R11)	30.5%	44.9% (R1)
文化芸術活動をした市民の割合	16.9%	30.0% (R11)	文化芸術活動をした市民の割合	30.0% (R11)	16.9%	25.5% (H27)
観光消費額	827億円	1,800億円 (R10)	観光消費額	1,800億円 (R10)	827億円	1,345億円 (R1)

北九州市文化芸術推進プラン(最終案)

令和6年12月

北九州市

はじめに

～文化芸術がもたらす多様な価値を原動力に、
「市民の幸福」と「まちの成長」の好循環を生み出す～

北九州市は、国内有数の工業地帯を抱き、国内外から集まってきた人々や企業、情報が交わり、独自の文化を築いてきました。それが私たち北九州市民のかけがえのない紐帯^{ちゆうたい}として、多様な地域や人生に彩りをもたらしてきました。

絶え間ない時代の変化を乗り越え、北九州市で脈々と受け継がれてきた歴史や風土、市民の営みの中で育まれた文化的な魅力を大切に守りつつ、文化芸術がもたらす本質的・社会的・経済的な価値をさらに引き出すべく、行政、市民、企業などが一体となり、時代の要請に応え、文化芸術の更なる継承と発展、そして創造につなげていくことが重要です。

今回、北九州市では、令和6年3月に「北九州市・新ビジョン（北九州市基本構想・基本計画）」を策定し、新たなまちづくりをスタートさせました。新ビジョンが掲げる目指す都市像の実現に向け、市民の皆様や団体、企業、地域など皆様とベクトルを合わせ、文化芸術関連施策を共に力強く進めていく指針として、「北九州市文化芸術推進プラン」を策定しました。

文化芸術とは、豊かな感性を培う源、人の心に癒しを与える源、都市の活力と潤いをもたらす源であり、その創造的な活動は、社会や経済活動を活性化する原動力となります。

加えて、文化芸術は多様な人と人をつなぎ、様々な垣根を乗り越えて共感・共有を生む基盤であり、人やまちの持つポテンシャルを引き出し、包摂性をもってまちに力を与える基盤でもあります。

このような多様な価値を踏まえつつ、このプランのもと、文化芸術の持つ力でまちを鮮やかに彩り、心豊かな市民生活や多くの人を惹きつける活力あふれるまちづくりを実現してまいります。

結びに、本プランの策定にあたり、多大なご尽力をいただいた、北九州市文化芸術推進プラン検討会構成員の皆様をはじめ、貴重なご意見をお寄せいただいた皆様に、心より感謝申し上げます。



令和6年 月
北九州市長 武内 和久

北九州市文化芸術推進プラン ～目次～

第1章 北九州市文化芸術推進プラン策定の趣旨…………… 5

- 1 北九州市文化芸術推進プラン策定の目的
- 2 北九州市文化芸術推進プランの位置づけ
- 3 計画期間
- 4 北九州市文化芸術推進プランにおける文化芸術の範囲

第2章 北九州市の文化芸術を取り巻く状況…………… 8

- 1 社会情勢の変化
 - (1) 少子・高齢化社会の進行と人口減少
 - (2) デジタル技術の進展
 - (3) 社会における文化芸術の役割の増大
- 2 国の文化施策の動向
- 3 北九州市の文化芸術の状況
 - (1) 北九州市の文化的特性
 - (2) 北九州市のこれまでの取組
 - (3) 市政変革の視点

第3章 北九州市文化芸術推進プランの全体像…………… 15

- 1 基本理念
- 2 北九州市文化芸術推進プランの全体像
- 3 北九州市文化芸術推進プラン3つの柱

第4章 各施策の方向性…………… 17

- 1 文化芸術の力で「まちに彩りを生み出す」
 - (1) 多彩で質の高い文化芸術に触れる機会の確保
 - (2) 地域の魅力的な文化資源の磨き上げ
- 2 文化芸術の力で「豊かな心と活力を育む」
 - (1) 次世代を担う子ども・若者の文化芸術体験の充実
 - (2) 誰もが文化芸術に親しみ楽しめる環境づくり

- 3 文化芸術の力で「多様な人を惹きつける」
 - (1) 多世代を惹きつける発信力の高い文化芸術の推進
 - (2) 地域の魅力的な資源を活かした文化観光の推進

第5章 北九州市文化芸術推進プランの推進…………… 23

- 1 推進体制
- 2 推進にあたっての指標

第6章 参考資料…………… 25

- 1 文化や芸術に関する市民意識調査結果 …………… 25
- 2 子どもの文化や芸術に関するアンケート結果 …………… 44
- 3 北九州市の文化施設の概要 …………… 47
- 4 北九州市文化芸術推進プラン策定過程 …………… 50

第1章 北九州市文化芸術推進プラン策定の趣旨

1 北九州市文化芸術推進プラン策定の目的

北九州市はこれまで、平成28年4月に「北九州市文化振興計画」（平成22年12月策定）を改訂し、「市民が文化芸術を身近に感じ、市民自身が文化芸術を支えるまち」を基本理念に掲げ、文化芸術の振興に取り組んできました。

そのような中、北九州市では、令和6年3月にこれからの市政運営の指針となる「北九州市・新ビジョン（北九州市基本構想・基本計画）」を策定し、北九州市が目指す都市像として「つながりと情熱と技術で、『一步先の価値観』を体現するグローバル挑戦都市・北九州市」を掲げました。

また、目指す都市像の実現に向けた3つの重点戦略（「稼げるまち」の実現、「彩りあるまち」の実現、「安らぐまち」の実現）を定めました。都市の経済力を高める「稼げるまち」の実現を起点に、多様な消費ニーズに応え、生活に潤いを与える「彩りあるまち」の実現や、すべての市民の安全・安心な暮らしを支える「安らぐまち」の実現につなげ、まちも人も潤う「成長と幸福の好循環」を創り出し、都市の総合力を高めていくこととしています。

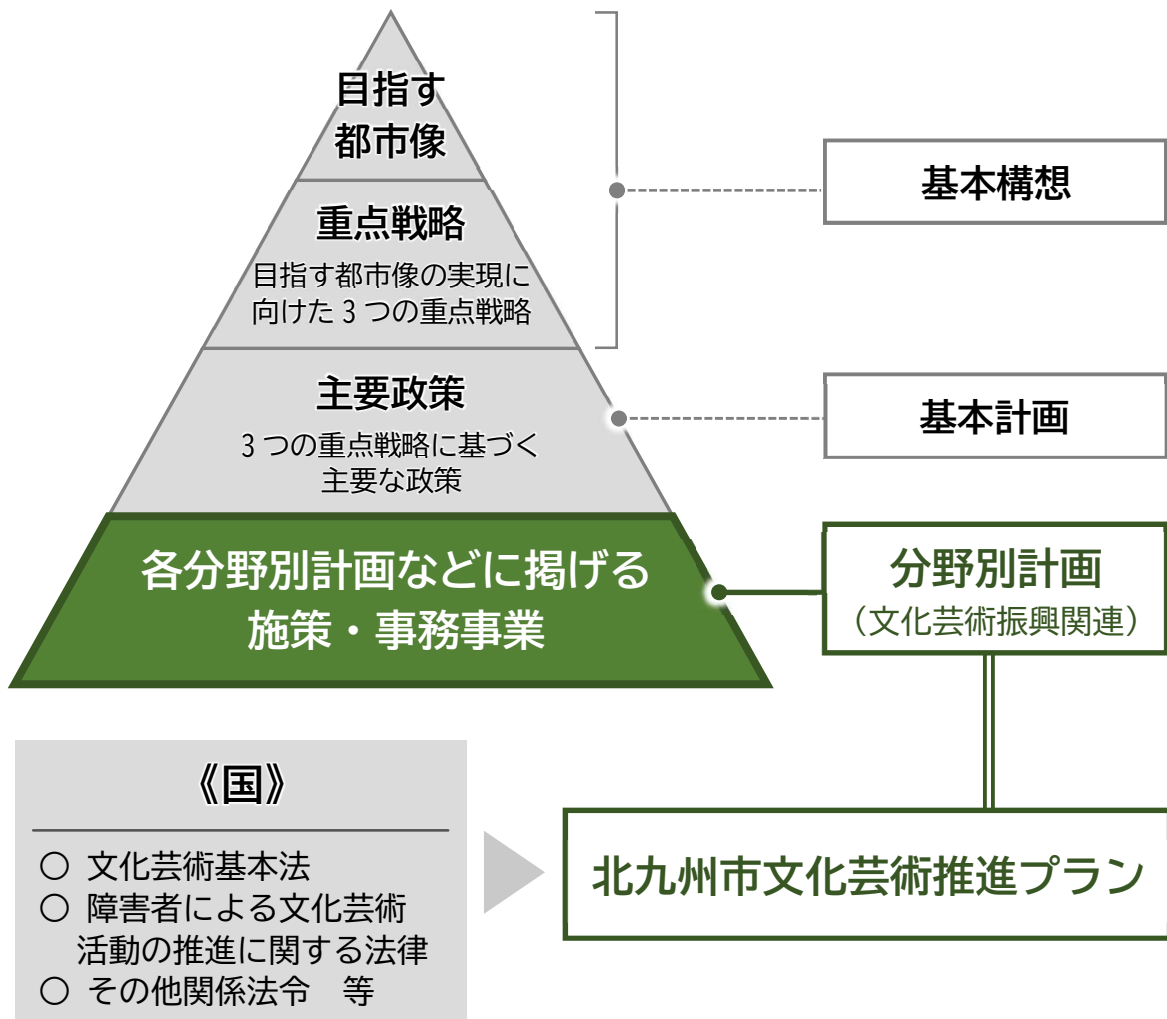
このような目指す都市像や重点戦略を踏まえ、文化芸術の力を最大限に発揮することで、市民や団体、企業などの関係者と共に、多彩なまちの魅力や個性を磨き上げ、都市の成長につなげるとともに、誰もがウェルビーイング¹を実現できる文化都市を目指すため、新たに「北九州市文化芸術推進プラン」を策定しました。

¹ 個人の権利や自己実現が保障され、身体的、精神的、社会的に良好な状態にあることを意味する概念

2 北九州市文化芸術推進プランの位置づけ

本プランは、「北九州市・新ビジョン」の重点戦略や主要政策を反映した、文化芸術振興に関する分野別計画になります。

さらには、国が定める、「文化芸術基本法」に基づく「地方文化芸術推進基本計画」及び「障害者による文化芸術活動の推進に関する法律」に基づく「地方公共団体における障害者による文化芸術活動の推進に関する計画」に位置付けるものです。



3 計画期間

本プランの計画期間は、令和7（2025）年度から令和11（2029）年度までの5年間とします。

4 北九州市文化芸術推進プランにおける文化芸術の範囲

本プランが対象とする「文化芸術」は、文化芸術基本法が定める以下の範囲を基本としつつ、北九州市の地域特性や時代環境の変化などを踏まえたものとしします。

《文化芸術基本法が定める「文化芸術」の範囲》

分野	例
芸術	文学、音楽、美術、写真、演劇、舞踊その他の芸術 (メディア芸術を除く)
メディア芸術	映画、漫画、アニメーション及びコンピュータその他の電子機器等を利用した芸術
伝統芸能	雅楽、能楽、文楽、歌舞伎、組踊その他の我が国古来の伝統的な芸能
芸能	講談、落語、浪曲、漫談、漫才、歌唱その他の芸能 (伝統芸能を除く)
生活文化	茶道、華道、書道、食文化その他の生活に係る文化
国民娯楽	囲碁、将棋その他の国民的娯楽
出版物等	出版物及びレコード
文化財	有形及び無形の文化財並びにその保存技術
地域における文化芸術	地域固有の伝統芸能及び民俗芸能 (地域の人々によって行われる民俗的な芸能)

第2章 北九州市の文化芸術を取り巻く状況

1 社会情勢の変化

(1) 少子・高齢化社会の進行と人口減少

全国的に少子高齢化が進む中、特に北九州市は政令市の中で最も高齢化率が高いことなどにより自然動態のマイナス幅が拡大し、人口減少が急速に進んでいます。

このような中、北九州市では、北九州市・新ビジョンにおいて、人口増に向けた道筋として、社会動態のプラス幅拡大と自然動態の改善に取り組むこととしております。

この目標を達成し、都市の活力を維持・発展させていくためには、文化芸術の力を活用し、魅力的な地域資源をさらに磨き上げるとともに、質の高い生活環境をつくり、定住・移住につなげるなど、選ばれる都市として一層魅力を高めていく必要があります。

このため、文化芸術の分野に関しては、子どもや子育て世代、若い世代が文化芸術を享受し、感受性や創造性などの人間力を育むことができる環境づくりが重要です。

また、文化芸術団体や文化芸術事業へ参加する方の高齢化が進んでいるため、シニア世代が地域で活躍する場をつくることで、次世代を担う子どもや若者に文化芸術を継承する機会の創出や、シニア世代の生きがいづくりにつなげるなど、様々な取組を進める必要があります。

このように、少子・高齢化社会の進行や、それを一因とした人口減少など、社会情勢の変化に対応しまちの魅力を高めていくためには、文化芸術の力を活かし、若者や子育て世代に選ばれるまちを目指すとともに、シニア世代の活躍を促進するなど、すべての市民や団体、企業などの力を結集した取組を進める必要があります。

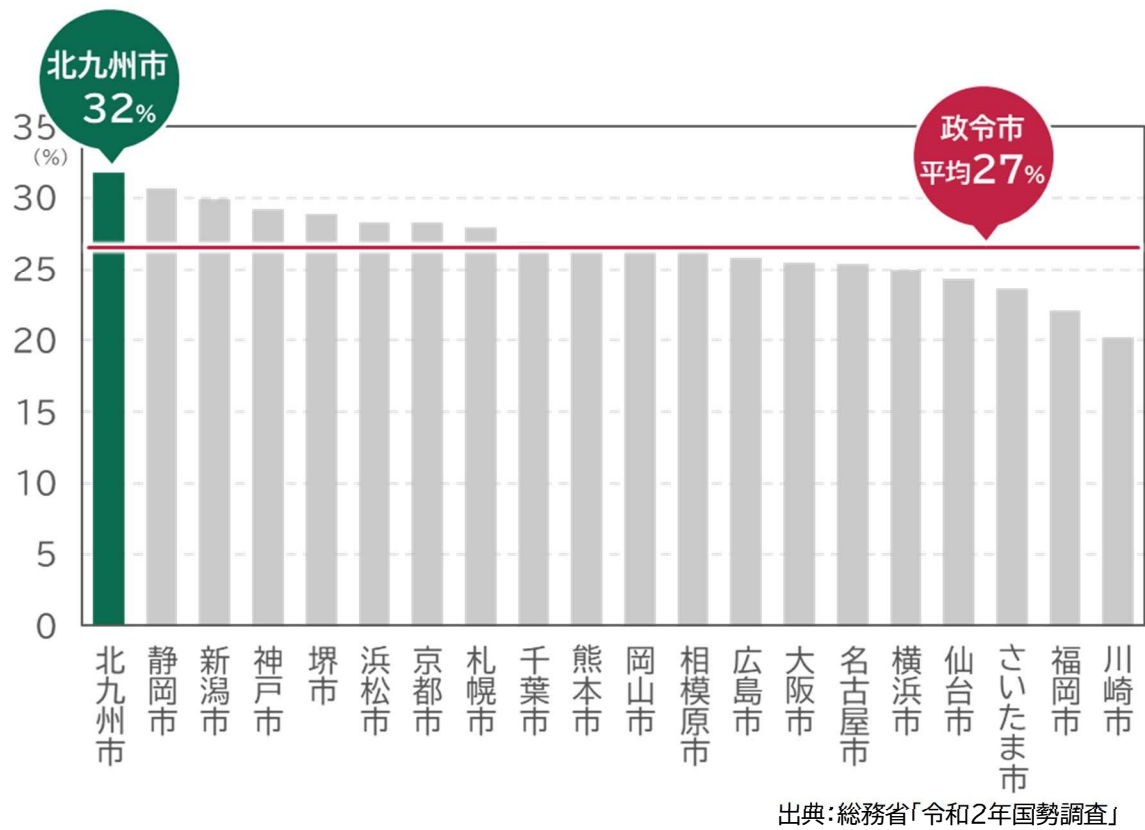


図1 政令市の高齢化率(令和2年10月1日時点)

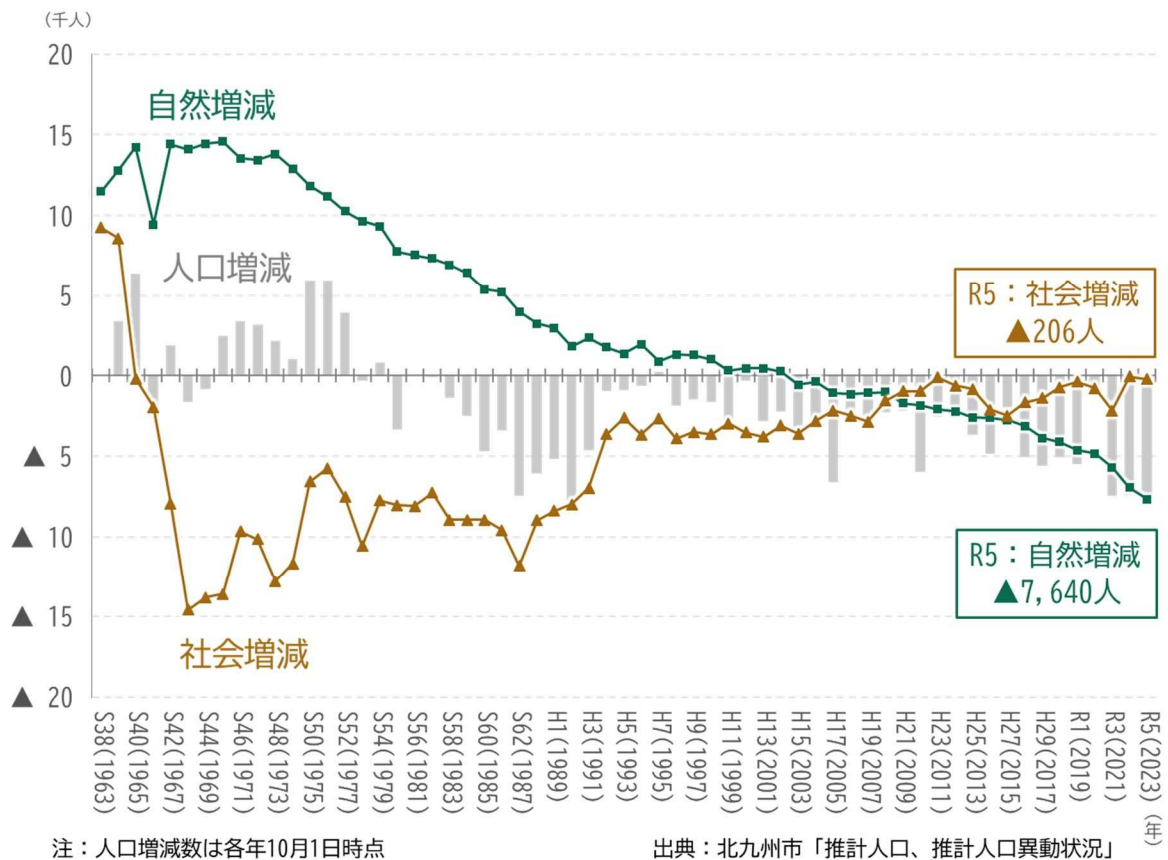


図2 北九州市における人口増減、自然増減、社会増減の推移

(2) デジタル技術の進展

デジタル技術の急速な進展により、インターネットを通じて文化芸術情報へのアクセスが容易になるとともに、AR²やVR³、バーチャル空間の活用など、新たな表現活動の可能性も飛躍的に広がっています。

コロナ禍を経て、オンライン配信なども一般化しており、今後も日々進化を続けるデジタル技術を活用した取組は、発表や鑑賞の手段の一つとして、定着・拡大していくことが見込まれています。

(3) 社会における文化芸術の役割の増大

文化芸術には、近年、観光・まちづくり・国際交流・福祉・教育・産業その他の分野との連携のもと、様々な価値を生み出すことが期待されています。

また、文化芸術は、世代や障害の有無、性別、国籍等に関わらず、誰もが親しみ、創造できるものであり、様々な価値観や個性、表現や考え方に出会うことは、多様性、包括性、持続可能性をキーワードとした新たな社会の実現にあたり、重要な要素となっています。

このように、文化芸術は、地域社会を魅力あるものにする複合的な力を有するものとして、その役割が増大しています。

2 国の文化施策の動向

国においては、平成29（2017）年に文化芸術振興基本法の一部が改正され、「文化芸術基本法」が成立しました。この法律では、文化芸術そのものの振興にとどまらず、観光、福祉、教育など各関連分野の施策と有機的に連携するとともに、文化芸術により生み出される様々な価値を文化芸術の継承、発展及び創造に活用することとされました。

² AR(Augmented Reality)とは、現実世界にコンピュータで作った文字や映像等のデジタル情報を重ね合わせて表示することができる技術

³ VR(Virtual Reality)とは、CGで作られた世界や360度動画等の実写映像を「あたかもその場所に居るかのような没入感」で味わうことができる技術

また、障害のある人による文化芸術活動に関する施策を総合的かつ計画的に推進し、文化芸術活動を通じた障害のある人の個性と能力の発揮及び社会参加の促進を図るために、平成30（2018）年に「障害者による文化芸術活動の推進に関する法律」が施行されました。

これらの法律においては、国が策定した「文化芸術推進基本計画」や「障害者による文化芸術活動の推進に関する基本的な計画」を参酌し、地方自治体においても、文化芸術の推進に関する計画を定めるよう努めることとされています。

3 北九州市の文化芸術の状況

(1) 北九州市の文化的特性

北九州地域は、アジアとの近接性、本州と九州各地との結節点という地理的な特性から、古くから独自の発展を遂げ、江戸時代には、城下町の小倉をはじめ、大里、黒崎、木屋瀬などが宿場町として栄えてきました。

大きな転換点となったのは、明治34（1901）年、官営八幡製鐵所の創業です。これ以降、「ものづくり」のまちとして、重化学工業を中心とする国内有数の工業地帯となりました。昭和38（1963）年には、門司、小倉、若松、八幡、戸畑、それぞれ色合いが違う五市が対等合併し、歴史や文化、祭り、食など、多彩な魅力をもつ九州初の政令指定都市として、北九州市が誕生しました。

北九州市は、日本経済の高度成長を牽引する地として急速に発展を遂げる中で、国内外から情熱や個性あふれる多くの人々や企業が集まり、中央や大陸から最先端の文化や情報が運ばれてきました。そして、人情と包摂性にあふれる北九州市民がその多様性を受け入れ、まちでのチャレンジを応援し、外から取り入れた異質な文化と地域の文化が掛け合わさることで、人々の暮らしは豊かで活気のあるものとなり、「文化先進地」として栄えてきました。

特に、多くの企業が福利厚生の一環として社内サークルやクラブ等における文化活動を奨励したことで、市民による自主的な文化活動が広がり、今に続いています。

(2) 北九州市のこれまでの取組

北九州市においては、これまで、「北九州市文化振興計画」（計画期間：平成22～令和4年度）を策定し、「市民が文化芸術を身近に感じ、市民自身が文化芸術を支えるまち」を理念として、以下のとおり4つの戦略を定め、様々な取組を行ってきました。

戦略1	北九州市らしさや特長をさらに強化し、市民のシビックプライドを醸成する
<ul style="list-style-type: none"> ○「官営八幡製鐵所関連施設」のユネスコ世界文化遺産登録 ○「戸畑祇園大山笠行事」のユネスコ無形文化遺産登録 ○能楽、日本舞踊等、伝統的な芸能の保存・継承 ○文化芸術の分野で活躍する方を顕彰する北九州市民文化表彰の実施 など 	

戦略2	次代の担い手を育て、新たな文化芸術の創造につなげる
<ul style="list-style-type: none"> ○学校への訪問コンサート等、アウトリーチによる優れた文化芸術と出会う機会の充実 ○「子どもノンフィクション文学賞」など、子どもの表現力を高める作品募集 ○舞台芸術の専門家によるワークショップなど、地域における文化芸術の未来を担う人材の育成 ○合唱団やオーケストラ活動を通じた、音楽性の向上や情緒豊かな青少年の育成 など 	

戦略3	文化芸術を生かした、ひとづくり、まちづくり、にぎわいづくりに取り組む
<ul style="list-style-type: none"> ○全国的に高い人気を誇り、市外・県外からも多くの人を訪れる「平成中村座小倉城公演」の開催 ○「関門“ノスタルジック”海峡」の日本遺産認定と「日本遺産フェスティバル in 関門」の開催 ○映画やドラマなどのロケの誘致を通じた、北九州市のイメージアップや地域のにぎわいづくり ○博物館や美術館等における話題性や集客力の高い、魅力ある企画展の開催 など 	

戦略4	本市の文化芸術の魅力を国内外に、積極的に発信する
<ul style="list-style-type: none"> ○市民や地元企業と共に育んできた「北九州国際音楽祭」の開催 ○北九州発の文化芸術を国内外に発信した「東アジア文化都市北九州 2020▶21」の開催 ○漫画やアニメをはじめとしたポップカルチャーや、メディア芸術を活用した情報発信 ○インターネットを活用した魅力的な文化芸術事業の一元的な情報発信 など 	

(3) 市政変革の視点

北九州市では、社会経済上及び財政上の様々な課題に直面しており、未来への挑戦を続ける都市としての持続可能性を保ち、安心安定した生活環境を次世代に引き継ぐためには、行財政運営のあり方を変革する必要があります。

北九州市が進める市政変革の取組では、「もっぱら『削る計画』ではなく、未来を『創る改革』』という考えのもと、行財政運営のカタチを変えることで、将来に向けて都市の総合力を高めることを目指しています。

市民の間で脈々と受け継がれ、育まれてきた、北九州市の文化芸術を継承・発展させるためにも、社会情勢や市民ニーズに応じて、財政の模様替えや制度の見直しなど、迅速・柔軟に対応していく必要があります。

こうしたことから、文化芸術施策の展開にあたっては、「北九州市市政変革推進プラン」や「北九州市公共施設マネジメント実行計画」等を踏まえ、財源や施設などの限られた資源を有効に活用し、魅力あるまちづくりにつながるよう、取組を進めていきます。